《英語》

実践的コミュニケーション能力の基礎を育む指導方法の工夫

～小中連携のカリキュラムの活用を通して～

那覇市立仲井真中学校教諭　中村育子

Ⅰ　テーマ設定の理由

急速な情報化，国際化のすすむ社会において，英語は，言語が異なる人々を結ぶ国際的言語として，最も中心的な役割を果たしている。そしてこのような国際社会に生きる子どもたちは，国際交流などを積極的に行っていけるようなコミュニケーション能力を身につけることが求められている。

『中学校学習指導要領（外国語）』の目標は，「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」と示され，特に実践的コミュニケーション能力の育成を重視している。

平成 15 年度から本市では，文部科学省より市内全小中学校が英語教育の研究開発学校指定を受けている。小学校では，英語が教科として導入され，「読む」「聞く」の音声重視の英語活動が行われてきた。その結果，中学入学時では基本的な英語を「聞きとる」力がついている生徒が多く，小学校における音声中心の授業の効果があらわれている。

それを踏まえ，これまで実践的なコミュニケーション能力の育成を目指した対話活動等による授業展開を行い，コミュニケーション重視の授業を心がけてきた。しかし本校では学年が上がるにつれ，習熟の程度の違いが見られる。そのため，教科書の単元で同一の活動を行おうとしても，それらが起因して，特にコミュニケーション活動を行うことが難しかった。

そこで，このような生徒の実態に応じた，「易から難へ」の段階的な指導の工夫が必要であると考えた。小学校で扱う言語材料の中には，中学で扱う共通したものも多く見られる。既に小学校から，たくさんの英語を音声面でインプットされていることもあり，小中で関連を考えた活動を組み込むことで，情意面を高めることができるであろう。そして，小中の言語材料を系統化した一覧表を作成し，それを活用した4領域の指導方法の工夫をすることで，基礎的な言語材料の習得につながり，実践的コミュニケーション能力の基礎が育まれるであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために，「買い物」の題材において，小・中の言語材料を系統的に配列したカリキュラムを作成し，それを基にした指導方法の工夫・改善について研究する。

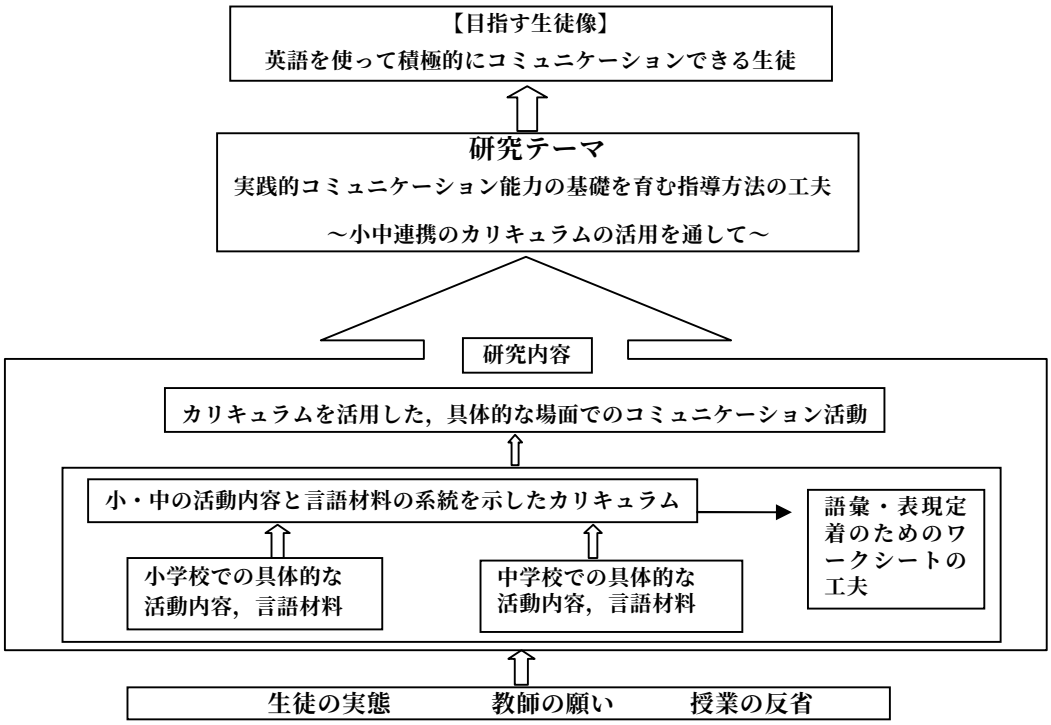
Ⅲ　研究方針

1　実践的コミュニケーション能力に関する理論の研究

2　小中の言語材料を系統化したカリキュラムの作成（「買い物」の題材）

3　カリキュラムを活用した指導の工夫

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力について

(1) 実践的コミュニケーション能力とは

現行の学習指導要領では「実践的コミュニケーション能力の育成」を「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を持っているというだけではなく，実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」と定義している。中学校英語教育においては，特に「聞くこと」や「話すこと」などの音声によるコミュニケーション能力が重視されている。そこで，英語を知識として知っているだけでなく，実生活の場面と結びつけて実践的にコミュニケーションできる能力の習得が必要であると考える。

コミュニケーション能力の要素としては，Canal and Swain (1980) の仮説を基にした Savignion (1983) の分析においては，次の4つから構成されていると述べられている。

①文法能力

英語の語句，構文，文法や発音などについて知識を持ち，聞いたり読んだりする理解の能力とそれらを話したり，書いたりする表現の能力

②社会言語能力

英語を使う際に，その表現がその場に適しているかどうかを判断する能力

③談話能力

対話や談話などを全体として意味のつながりを理解したり，状況や主題にあった文章を書いたり発話する能力

④方法能力

コミュニケーションが断絶することなく，スムースに行われるように別の表現で言い換えたり，繰り返したり，言葉に詰まった時などつなぎ表現を使いながら，コミュニケーションを継続させる能力

私たちは，母国語においても上記の4つの能力を使って，コミュニケーションを行っている。これは外国語においても同じである。従って，実践的コミュニケーション能力を高めるためには，上記の能力を育成するような，個に応じたレベルから活動を行わせる必要があると考える。

(2) 実践的コミュニケーション活動を目指した授業改善

上記に述べた要素から，コミュニケーションとは，話し手や書き手の考えをメッセージとして把握したり伝えたりといった相互的な活動であると言える。特に，日常生活に結びつくような題材を取り上げることが，重要であると考える。しかし，授業において，音声面だけを重視すると，基礎基本である言語事項の定着がおろそかになる。また，文型･文法指導に重点を置く授業展開では，コミュニケーション能力は育てることはできない。そこで，コミュニケーションを重視した授業展開の中に，文型や基本表現を定着させ，運用する力を育成することを考えた言語活動計画が大切になってくる。

本市では3年前から，小学校で英語活動が始められており，音声によって基本的な語彙や表現がインプットされている。それらの単語や表現，さらに中学校の言語事項が運用･定着できるよう，小中連携を活かし，系統立てて指導する授業改善を図っていきたい。

2　小中の言語材料の系統を示したカリキュラム

(1) 言語活動の取り扱い（中学校学習指導要領より）について

学習指導要領における言語活動の指導事項は，学習の深まりを目指して，学年の枠がはずされている。生徒の学習の習熟の程度に合わせ，「3学年を通した段階的で幅広い言語活動が繰り返し行われること」と述べられている。3学年間を一括して示したことから，「3学年を通した全体的な配慮事項」として，幾つかその取り扱いを示している。その中の一つとして，「言語の使用場面」について具体例が示されている（表1)。これは授業における実際的な言語使用場面の設定を考慮し，これらの場面で使われる表現を，繰り返し指導する中で生徒に身に付けさせることを意味している。

表１　言語使用場面（学習指導要領より）

a　特有の表現が使われる場面	b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面
あいさつ・自己紹介	家庭での生活
電話での応答	学校での学習や活動
買い物	地域の行事
道案内	
食事	
旅行	

本市では，小学校から，音声による英語活動が始められているため，小学校も含めた「9年間」のスパンで捉えていくことにした。そこで，「a 特有の表現が使われる場面」から，小学校で3年生から6年生まで扱われ，継続性のある題材「買い物」を取り上げ，繰り返し指導を行うこととした。

(2)「買い物」の題材の言語材料（小学３年生～中学３年生）

小学校で慣れ親しんできた表現や語彙を多く取り入れた会話活動を授業に取り入れることで，生徒のコミュニケーションへの意欲関心が高められるであろうと考えた。そこで，「買い物」の場面において使用される小学から中学までの言語材料と活動内容の系統を示した表を作成することとした。

カリキュラムを作成することは，教師にとって，小学校で活動した内容が中学校の単元と結びついていることを実感できる。また，小中連携における長期的な視野に立った指導工夫の必要性を感じるであろう。そして，系統立てた言語材料や活動等を授業に組み入れながら，小中をつなげる指導を工夫することで，活動内容の定着を図りたい。これは生徒にとっても，小学校で学んだことが，中学校でも活かされていることが意識できるであろう。

表2　小中の言語材料の系統を示したカリキュラム（買い物の題材）

	場面特有の基本表現	活動内容	単　語
中　学 1・2・3年 包装，試着希望や考えを述べる。 ＋ 注文，値段、サイズ，持ち帰り	May I help you？I want ..,please. For here or to go? Here you are. How much is it? How about this one? I'm looking for ~/I'm just looking. What size (color) are you looking for? It looks too large. It's too expensive. Shall I show you a smaller one? (Do you have a smaller one?) May I try this on? I'll take it. Could you wrap it? (Shall I wrap it up for you?) （店員の質問に対し，希望を答える。客から要望を伝え店員との会話が続く。）	①店員と客の会話を聞いて，買ったものや金額を聞き取る。 ②ファースト・フード店の客と店員になったつもりで，注文やお金の支払いなどの会話をする。 ③ Will you ～?, Shall I ～?, May I ～?, Shall we ～?, must や have to の表現を用いて，相手に尋ねたり，適切に応答したりすることができる。 ④食事，買い物，という場面に応じて会話をすることができる ⑤ペアでレストランの客と店員になり，注文するときの対話をアレンジしてロールプレイをする。 ⑥ペアで買い物客と店員になり，対話をアレンジしてロールプレイをする ⑥・値段が高すぎるとか，何色があるかなどといった買い物の様々な場面を設定し，友達と交互に役割を変えて会話をする。 （単語表記せず）	
小６年 注文，値段，サイズ，持ち帰り	May I help you? One hamburger and two orange juice, please. Which size do you want? To drink here or to go? （客と店員の１問１答形式）	「お店を開こう」「注文しよう」 ①ゲームを通して，食べ物，飲み物サイズなどの新しい単語になれる。 ②買い物ゲームを通して，注文の仕方などに（サイズ，値段，持ち帰り） のイ連の会話に慣れる。 （単語表記せず）	
小５年 注文，値段，サイズを聞く	May I help you? ～please? What size? How much is it? It's ~ dollars. Here you are. （客と店員の１問１答形式）	「ピザを買おう」 ①買い物に使う表現を知る ②買い物で使う表現を知って会話のやり取りを楽しむ	cap/map/bottle/watch/water/ lunch box/money/ tent/ knapsack handkerchief/ flash light/sleeping bag/ **Foods:** Spaghetti/bread/ Sushi Pudding /Dumpling/
小４年 注文，値段（いくら？）	May I help you? I want cake. How much? 3dollars. (How much is it? / How much was it?) May I help you? This one, please. （客と店員の１問１答形式）	「買い物ごっこ」 ①いろいろな食べ物や飲み物、果物の言い方を学ぶ。 ②注文のときの言い方を学ぶ。 ③お金について学ぶ。④学んだ単語を使い買い物をする。	**Fruits:**apple /orange/ grape /melon / peach /pineapple **Vegetables:** tomato/ onion /pumpkin /carrot /cucumber **Foods:** hamburger/ hot dog / doughnut /cake /pizza **Drink:** juice/ tea /coke /milk /soda
小３年 注文，品物の受け渡し	May I help you? Yes. Bananas, please. Here you are. Thank you very much. You are welcome. （客と店員の１問１答形式）	「買い物ごっこ」 ①「いらっしゃいませ」「～お願いします」「はいどうぞ」「ありがとう・どういたしまして」の対話の仕方を知る。対話に慣れ親しむ	野菜，果物，食べ物，文具 tomato/onion/carrot/ pumpkin / potato/ cucumber/corn /cabbage/ spinach book/eraser/ruler/pen/pencil/glue /scissors/crayon

＊小学3～6年の那覇市の研究開発学校資料の小学校英語活動の年間指導計画より
＊中学1～3年：New horizon（東京書籍），Total English（学校図書）より

３　「小中の言語材料の系統を示したカリキュラム」を活用しての実践

表2のカリキュラムを基にして，小学校からの既習の表現を用いた会話活動を取り入れる授業構築が可能である。 また，個人差に対応するため，カリキュラムを基に学習段階を設定した教材の作成を行う。それにより，生徒は習熟の程度の違いを気にせずに，意欲的に取り組むことができるであろう。

(1) 「弾丸インプット」とは（川村光一提唱）

「効果的に英語で話すことにつなげた，ゲーム感覚のインプット活動である。毎時間の繰り返し学習で大切な表現が定着する。」と述べられ，使える英語表現をプリントにまとめ活用する方法である。

(2) 「じゃんじゃんインプット」の作成・活用・内容

上記の考え方に基づいて，作成したコミュニケーション能力を育むためのドリル教材である。「買い物」の題材において，系統表を基に，①「基本コース（小学校 3～6 年）」②「普通コース（中学校1，2年）」③「ちょっと頑張りコース（中学2，3年）」④「発展コース（役立つ表現）」と 4 つのコースを設定（表3）し，4 領域の言語活動において活用する。

4　本時の学習（4／６時限目）

(1) 本時の指導目標

①「買い物」活動を通して，英語でのコミュニケーションを楽しむ。

②既習・未習の会話表現を運用して，自分のほしいものを買ったり売ったりすることができる。

③「買い物」の場面で使用される基本的な英語表現を活用して，スキットを作ることができる。

(2) 授業仮説

「買い物」の場面のコミュニケーションにおいて，これまで学んできた英語表現ドリル（じゃんじゃんインプット）を活用して活動を行えば，基本的な表現を身につけられるであろう。

(3) 本時の展開

活動の流れ	活動内容 Student's Activities	教師の支援		留意点
		JTE	AET	
9:50（2 分） Greetings 9:55（17 分） Warm-up Review① 〈10 分〉	挨拶をする。 **「じゃんじゃんインプット」練習** ①全員で行う ②ペアで練習 ③ペアでチェック	挨拶をする。 ・小中学校で学んだ英語表現を用いて質問。 ・買い物に関する基本の表現のモデルダイアログを行う。 ・活動の様子を褒める。		英語が話しやすい雰囲気を作る。 “じゃんじゃんインプット”シート 一斉 ペア
		・生徒の進度や理解の状況を把握する。つまずいている生徒への支援。	・特に発展へ進む生徒へ支援を行う。	
10：05〈7分〉 Review②	「会話表現並べ替え」 ・ペアで相談し，写真に合う会話表現になるよう並べ替える。〈解答〉 ・希望者が1文ずつ黒板へセンテンスボードを貼る。	・黒板に写真を提示し，並べ替えの説明を行う。 ・ペアで協力しているか，場面を考えて表現を当てはめることができるか生徒の理解度を把握する。 ・数名のペアに指名し，解答を行う。		ペア活動 ・写真 ・センテンスボード
10:12（20分） Main　Activities Shopping activities	実際に**ショッピング** ・店員と客の2手にわかれ，活動を行う。 1．食べ物2．かばん3．Tシャツ4．靴 ・生徒は全店舗で買い物をする。時間が来るまでどれだけ買えるか挑戦する。 ・客は買い物の後，その証明としてワークシートに店員からサインをもらう。 ・交代し Shopping activities を行う。	・ショッピングのやり方の説明 ・ルールを提示 ・生徒が学んだ表現を使って，買い物を楽しんでいるかを，観察する。 ・表現がわからず，困っている生徒への支援。・未習の表現も，その場に必要なものは，机間巡視の際に教える。		グループ ワークシート①
		・買い物がスムーズに進行しているか全体を把握する。 ・交代させる際には，生徒が混乱しないよう，指示を明確にする。 ・何をいくつ買えたか，表現を使えたか，新しい表現があったか等，生徒へ確認。	・表現がわからず困っている生徒への支援。 ・交代がスムーズに行えるよう支援する。 ・買い物できた商品を確認し，ほめる。	
10：32（5 分） ワークシート② “写真でダイアログ”	**“写真でダイアログ”**を仕上げる。**（スキット）** （自分で会話を考え，シートに書く）	・買い物の表現をワークシート②“写真でダイアログ”にまとめさせる。 ・期間巡視を行い，書けているかどうか観察評価 ・かけない生徒への支援（簡単な表現から書けることを気づかせる）		個人 ワークシート② “写真でダイアログ”
10：37（2 分） Consolidation 10:39　（　1　分　） Closing	本時を振り返る 挨拶をする	今日の活動を振り返る 挨拶をする		

(4) 題材の評価基準に基づいて行う。

Ⅶ 結果と考察

検証

小中学校の言語材料を系統化し，それを基にドリルやワークシートを作成・活用すれば，基本的な英語表現を身につけ，実践的コミュニケーションの基礎を育むことができるであろう。

【手だて１】表現ドリル“じゃんじゃんインプット”の活用（「聞く・話す」活動において）

毎時間10分程度（通算5回），“じゃんじゃんインプット”（表3）英語の練習を行う。それぞれの生徒の習熟度に合った段階から始める。

教師の範読について読む練習後，ペアで練習する。暗唱できた文をシートにチェックする。そして，全文暗唱できたら，次のレベルへ進む。

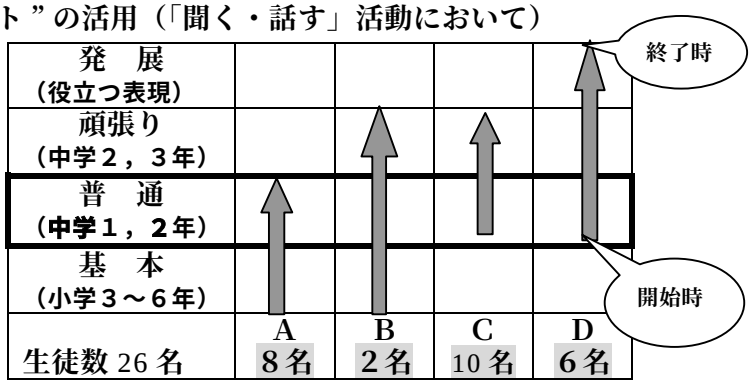


図４“じゃんじゃんインプット”を活用した生徒の変容

【結果】

図4は，“じゃんじゃんインプット”の開始時のコースと終了時のコースを比較し，生徒の変容を表している。

この図から，「基本～普通」までの2段階，習得できた生徒は8名であった。「基本～頑張り」の3段階まで習得した生徒も2名いた。「普通～頑張り」まで終了した生徒が最も多く，10名であった。そして，「普通～発展」まで3段階進み，全ての段階を終了した生徒が，6名も見られた。このように全員が2～3段階のコースを習得した結果となった。また，「聞く･話す」活動における到達目標を「普通」コースに設定したが，これは全員が目標に到達している。

【考察】

「基礎」コースから始めた生徒は，図4のグラフA,Bで示されているように，10名であった。普段は英語が苦手な生徒たちであるが，開始時より次の段階へ進むことができている。これは，“じゃんじゃんインプット”を練習する際に，自由にペアを組ませ，対話活動を楽しみながら互いに学びあったことが，学習意欲を高めることにつながったからと捉える。ペア学習では，わからないことも臆することなくペアにたずねることができることから，理解，習得へと結びつき，次の段階へスムースに進めるようになった。また一方で，到達目標の「普通」コースから始めた，比較的英語の得意な生徒はグラフC･Dで見られるように16名であった。この生徒たちも，開始時より上の段階へ進んでいる。これは，自分の段階にあった友人とペアを組むことで，自分のペースで楽しみながら，より高いレベルへ挑戦できる喜びを味わったからであり，これもペア学習の効果であると捉える。

また，4つの段階が設定されているため，個人の目標を設定しやすく，生徒自身が先の見通しを持った学習ができるようになる。つまり教師主導ではなく，生徒たちが自分のたちのペースにあわせた計画を立て，学習を進める（自己学習）ことへつながることがわかった。

このことから今後も，生徒の習熟の程度の違いを考慮し，「小中9年間の英語教育」を捉えながら，幅を持たせた言語活動を組み込んだ授業の工夫を図っていきたい。

【手立て２】「書く」活動１　ライティングドリルの毎時間活用

毎時間，「じゃんじゃんインプット」の中の表現を，5分程度，「音声」から「文字」を意識し，唱えながら写本的に書くドリルを行った。

【結果】

ここでは，抽出生徒 A のテスト結果を事例として取り上げる。抽出生徒 A は，「じゃんじゃんインプット」の「基本コース」から取り組み始め，「ちょっと頑張りコース」（中学 2，3 年）までレベルアップした生徒である。授業前は英文が読めず，全ての英文にカナをつけていた生徒であった。授業前のテストでは，単語のスペルミスが目立ち，ほとんど書けない状態である。（図4）また，単語の並べ替えでは，語句が示されているが，語順が定着していないため，誤答となっている。（図5）しかし授業後は，中学校で扱う単語のスペルミスがわずかにあるだけで（図7），語順も正しく，ほとんど正解となった。（図6）

生徒 A の Writing テスト結果の変容　＊下線はスペルミス　＊二重線は語順ミス　＊○は正答

授業前

1　Mey I hep you.
2　ap.....pr...
3　he you are.
4　hou is is ?
小学校の内容（基礎コース）

図 4　授業前（Dictation）

1　May I you help?
2　apple Please.
3　Are you here.
4　How is much it?
小学校の内容（基礎コース）

図 5　授業前（word　order 有）

授業後

①　May I help you?
②　Apple please.
③　Here you are.
④　How much is it?
小学校の内容（基礎コース）

図 6　授業後（Dictation）

①　May I help you?
②　I'm looking for a T-shirt.
3　It look to small.
4　Do you have a big one?
⑤　May I try this on?
6　I'll teiku it.
中学校の内容（ちょっと頑張り）

図7　授業後（Dictation）

＊Word order とは・・・
単語の並べ替え（英文を完成するため）
＊Dictation とは・・・
教師が読み上げる英文を聞いて書く。

【考察】

単語 12 個中，7個のスペルミスがあった状態から，全て正確に書けるようになっていることから，授業の中で5分程度のライティングドリルを，毎時間書かせたものと考える。これまで単語を書く活動は，宿題として扱ってきたが，宿題をやらない生徒も見られた。また，単語をただ写すだけで，スペルを覚えない生徒が多かった。しかし授業において，短時間でも時間を確保し，練習することで，確実に覚えることができ，書けるようになることが分かった。また，唱えながら書くことで，語順（文法）も身についたと考える。「書く」時には，基本表現を何度も見ながら，つまり，「読む」作業を取り入れながら，書く。この「読む」ことと「書く」技能が関連して，相乗効果を生み出し，語彙，語順（文法）の理解へと結びついていると考えられる。よって，「書く」力をつけるためには，「読む･書く」活動を組み合わせて行うことが，効果的であると考える。

【手立て3】「書く」活動2　“写真でダイアログ”の活用

ワークシートに，店員と客がそれぞれ何というのか，台詞を考えさせ，吹き出しの中に書かかせる。（スキット作成）4回の授業でライティングドリルを行った後，単元のまとめとして“写真でダイアログ”を活用する。

【結果】

図8は抽出生徒Bが作成したスキットである。生徒Bは“じゃんじゃんインプット”では，「基本コース」から，「発展コース」まで4段階を全て習得した生徒である。作品の中では，「普通～ちょっと頑張りコース」の表現以外に，「発展コース」や生徒独自の表現を用いてスキットを仕上げている。“写真でダイアログ”の活用に関する生徒作品や感想から，談話能力が高められてきたことがわかった。

＊下線　①～③は生徒B独自の表現。④⑤は「発展コース」の表現。

図８　生徒のワークシート“写真でダイアログ”（スキット）

表９　　生徒Ｂの感想

- 写真を見るとなんとなく意味がわかり，書くことができた。
- “じゃんじゃんインプット”を使って覚えたことを書けるので，簡単だった。
- 何度も言ったことを書くので今までと違って，語順で悩まなかった。
- 自分の使える簡単な英語でも，自分の考えが書けた。
- たくさん話したり書いたりしたことが，難しい感じがしなかった。

【考察】

スキットの内容において，「発展コース」の表現（下線⑤⑥）や生徒が独自で考えたオリジナルな表現（下線①～④）などが状況に応じて運用されている。これは，教科書の単元で扱う以外の表現も“じゃんじゃんインプット”で十分に身についている事を表している。そしてその既習の言語材料から，その場面にふさわしい適切な表現を自ら考え運用し，オリジナリティーのある作品になっている。従来は，その単元で扱う言語

材料だけを用いた会話しかできなかった。しかし本研究では，小学校から中学校までの言語材料を，活動に組み込んだことで，語彙や表現が豊かになり，発展した自由な表現を使えるようになっている。「書く」ことにおけるコミュニケーション能力を伸ばしていくには，言語材料を狭い枠で限定せず，様々なレベルのたくさんの言語材料を与えることが重要であると捉える。

【手だて4】“じゃんじゃんインプット”の活用についての生徒の意識

【結果】

“じゃんじゃんインプット”を活用した言語活動を生徒がどのように評価しているか，意識調査を実施した結果である。Q3では，“じゃんじゃんインプット”の活用が，全領域で役立ったという高い数値を示した。Q4は小学校～中学校の段階を設けたことが，生徒にとって活動しやすい状況であったことが述べられている。（表10）

質問項目	事　前	事　後	
Q1. 英語の授業は楽しいですか。	はい　77％	はい　96％	
Q2. じゃんじゃんインプットは「買い物」活動で役だったか。		はい　85％	
Q3. じゃんじゃんインプットはどんな点で役立ちましたか。		読むこと95％	書くこと90％
		話すこと93％	聞くこと82％
Q4. じゃんじゃんインプットのコース設定について，感じたことを教えてください。 ＊事後のみの回答		・自分のレベルにあったコースから練習できるので，できないことがなかった。 ・基本は簡単でやる気が出た。 ・発展まで頑張ろうという目標が持てた。 ・頑張りコースは，できるようになるとかっこよくて，自信になった。 ・自分のペースでやれるので，よかった。 ・授業で小学の復習からやったので，忘れていたこともすぐ思い出して，使えるようになれたこと。 ・中学で習う難しい言い方も，小学校で習った易しい言い方から少しずつ変えていけたので，簡単に感じた。	

【考察】

“じゃんじゃんインプット”は，生徒がそれぞれ自分の習熟度に応じて，基本の表現から始められるような構成になっている。それを，繰り返し練習する中で，基本表現を身につけ「買い物」活動ができるようになることから，満足感や達成感を味わい，意欲向上へつながったと捉える。

Q3の調査結果から，4領域全てにおいて，役に立ったと実感していることがわかった。従来は，コミュニケーション活動で活用するワークシート等は，コミュニケーション活動のみで扱い，また，ライティングのためのワークシートは「書く」活動のみで扱うといったように，同じワークシートを他の領域と関連させて使用するということがなかった。しかし今回は，“じゃんじゃんインプット”を意図的に全ての領域に関連させて，活用したことで，以前より生徒の各領域への意識が高まってきたことが伺えた。

本校の中学2年生は，人前で表現することを恥ずかしいと感じる生徒が多く，学力差もあることから，積極的に活動に取り組めないことがあった。しかし，授業後に行った意識調査では，Q4の「基本は簡単でやる気が出た。」「中学で習う難しい言い方も，小学校で習った易しい言い方から少しずつ変えていけたので，簡単に感じた。」という生徒の意識の変容がみられる。このことから，従来の教科書通り単元を進めていく授業構成ではなく，「易から難へ」という“段階”を踏まえた言語活動は，意欲向上へ結びつき，語学における4領域の意識づけに，効果があったと考える。

このように，小中連携のカリキュラムを活用した指導を行うことは，生徒の意欲を高め，実践的コミュニケーション能力の基礎の育成につながる指導方法の一つであると捉える。

Ⅷ 研究の成果と課題

１　成果

(1) 小中連携のカリキュラム「じゃんじゃんインプット」を活用することで，個人差に応じた段階的な活動ができ，生徒のコミュニケーションへの意欲が高まった。

(2) 4領域のバランスを考えた言語活動を組み込むことで，特に，「書く」ことの力が高まってきた。

２　課題

(1) 個人差や興味関心に対応できる授業形態の工夫

(2) 他の題材における，小中の言語材料を系統化したカリキュラム作成

《主な参考文献・資料》

「中学校学習指導要領解説　外国語編」	文部科学省	東京書籍　2004
「中学校学習指導要領の展開 外国語（英語）科編」	平田和人	明治図書　2001
「現代英語教授法総覧」	田崎清忠編集	大修館書店　1995
「英会話月別１分間メニュー」	大久保素子・落合裕子 堀田優加子・辰巳順子	明治図書　2006
「コミュニケーションのための ４技能の指導」	伊藤治己	教育出版　1999
「楽しい英語授業１２」		明治図書　1997
大垣市教育研究所研究員研究集録	大垣市教育委員会	2003　2004
平成 17 年度小学校英語科指導計画	那覇市教育委員会	2005
研究開発実践報告書・第３年次	那覇市教育委員会	2005